

女性現実研究所 資料『女性現実物語』

性的言動調査研究報告コホート

女性の汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛
(コプロラリア・Coprolalia) と「恥」の意識

まるで物語のような女性の現実に寄せて

初版：2004年5月2日

最終更新：2019年9月22日

～ 著者 ～

◆女性現実研究所 代表スタッフ (代表ウォッチャー、男女)

～ 編者 (女性からのご相談、ご投稿、情報提供の受付および本著の編集) ～

◆女性現実研究所 幹部女性スタッフ (幹部女性ウォッチャー) 一同

～ ご協力者 (代表および幹部女性スタッフ一同より厚く御礼申し上げます) ～

◆女性現実研究所 一般女性スタッフ (一般女性ウォッチャー) の皆様

(社会人女性スタッフ、主婦スタッフ、女子大学生スタッフ、女子高校生スタッフ)

◆女性現実研究所にご相談、ご投稿、情報提供して下さった全ての女性の皆様

(本著では、女性ご本人から公表のご希望やご許可を頂いた事例のみを取り上げておりますが、全ての女性にメール返信や面談などの個別対応を行っております。)

目次

1. 汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛 (コプロラリア・Coprolalia) と、
短歌・俳句・川柳によるリハビリ
 - 1) ご相談の例と女現研の対応
 - あ) ご相談の例
【女現研の対応】
 - い) ご相談の例
【女現研の対応】
 - う) ご相談の例
【女現研の対応】
 - え) ご相談の例「性的な言葉を言ったり書いたり作ったりしてしまう症状」
【女現研の対応】
 - 2) コプロラリアの医学的定義と実態の奇妙さ
 - 3) 日本女性の「恥ずかしさ」とコプロラリア
 - 4) コプロラリアと迷惑防止条例違反「ひわいな言動」
 - 5) コプロラリアの類似概念

今後のテーマ

コプロラリアの短歌リハビリと与謝野晶子
秘密言語による意思伝達

1. 汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛 (コプロラリア・Coprolalia) と、 短歌・俳句・川柳によるリハビリ

1) ご相談の例

あ) ご相談の例

「私は、ごく普通の社会人女性です (でした)。厳密には、ごく普通だと思っていたと言ったほうがよいかもしれません。しかし、あるとき、無理難題を私たち部下に押しつけてきた上司 (男性・女性) に向かって、過去に自分が一度も発したことのない言葉、ク〇〇ジイ! ク〇〇バア! という汚い言葉を突発的に発してしまいました。

それ以来、上司や周囲からの私への目線や評価、人間関係がすっかり変わってしまい、退職しました。その後、調べてみた結果、これは汚言症という症状ではないかと思っています。私は、幼少期からすごくいい子として育てられ、近所でもいい子として有名で、そのプレッシャーのようなものが影響しているのではないかと考えています。

今さら遅いですが、相談相手もいないため、ご連絡させていただきました。」

【女現研の対応】

私たちは、女性がまさしくコプロラリアを発症しているととらえ、そのように回答。

い) ご相談の例

「わたしの娘のことでご相談にやってきました。娘は中学生です。娘は、機嫌が悪いとき、イライラしているときに、いきなり卑猥な言葉を発したりします。卑猥な言葉というのが、おっ〇いや、おま〇こなど、とても受け入れられない言葉です。

娘が思春期なのはわかっていますが、周りのお子さまはそのような言動はないので、娘は何か脳に異常があるのではないかと心配しています。わたしの育て方にも原因があるのでしょうか? 道徳的なことは親としてしっかり身につけさせているつもりです。ご回答をよろしくお願いいたします。」

【女現研の対応】

娘さんはコプロラリアと診断され、母親からの突き放し、ネグレクトが始まったため、義務教育の終了を待ってから私たちのシェアハウスに入居。母親には、母親がご自身で正しいと信じている性道徳それ自体もまた、大人の事情による一つの性的価値観にすぎないことを伝えた。

う) ご相談の例

「私は今大学生で、幼少期のころからチック症があり、性的な言葉を無意識に発してしまう癖があります。小学校、中学校、高校、大学と、順に頻度は落ちてきているのですが、たまに気分を発散させたり爆発したいと心で思ったときに、クソマ○コ、ア○ル、ゲロウ○コ、ビュービューオシ○コなどの言葉が出てきます。これらは、自分の脳が知っている言葉（フレーズ）ではありますが、自分で言おうとして言ったものではないです。

フレーズは、母親や姉が自宅で AV に出たり風俗をしていたときに相手の男性たちと一緒に言っていたり、私が母親、姉、男性たちから性的な行為を受けたときに言われたりしていたので、私も聞いて覚えてだけのもので。また、右手がこれらの言葉を書こうとして、左手で止めなければならないことがあります。

これらの点で、何かの病気ではないかと感じていますが、私自身がただの変態なのかもしれないとも考え、とても不安になっています。ただ逆に、女子会でみんなが下ネタで盛り上がっているときは、そんなに会話には入れないタイプです。周りから自分が浮いていると感じたときに、家に帰って（今は独り暮らしです）、心の叫びとして、そういう言葉を発してしまうという自覚です。」

【女現研の対応】

女性は PTSD と診断され、性的言動はどの医者からも理解されなかったが、私たちはコプロラリアも発症しているとらえ、私たちのシェアハウスに入居。

え) ご相談の例「性的な言葉を言ったり書いたり作ったりしてしまう症状」

「女性現実研究所さま

はじめまして。私は、トゥレット症候群という病気の女子高校生です。顔や手が勝手にビクッと動く症状があります。

それとは別に、失礼だとは思いますが、女性現実研究所さまに相談させていただきたいことがあります。それは、なぜか自分が勝手に、性的な言葉を言ったり書いたり作ったりしてしまう症状が一緒に出ることです。

その内容は、女性にしてみればとても恥ずかしいものです。たとえば、排泄をしたとき、

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory, WRLRL、ウィルール)

その自分の液体や物を見て、その液体や物の名前や、それが出てきた場所の名前を言ってしまう、思わず家族に聞こえないよう口を思いきり押さえます。

症状が出ているときは自分が自分じゃないようで、とても苦しいですが、症状が終わると心が安まり、チックも収まって、数日間は性的な言葉も出なくなります。気分もよくなり、学校にも頑張っているようになります。

女性現実研究所さまのいろいろな正直な研究を読み、このような方々ならそのような悩みも理解していただけると感じ、相談させていただきました。

もしご迷惑でなければ、他のトゥレット症候群女性の皆さまのリハビリに参加させていただければと思っています。よろしくお願いします。」

【女現研の対応 (回答の転載)】

はじめまして。なかなかご報告がしづらい内容につきまして、ご丁寧にお書き下さり、ありがとうございます。

結論から申し上げますと、あなたの症状は、「コプロラリア (Coprolalia)」と呼ばれる症状だと思われます。患者様にとっては傷つく名前だと思いますが、日本語では「汚言症」や「猥褻語多用癖」と呼ばれています。トゥレット症候群の一部の患者において、顔や手が突発的・不随意的に動く症状などと共に出現します。

症状を抑える方法には、すでに頑張っていて取り組んでおられるように、口を押さえるなどの方法があり、症状を表面的に、かつ一時的に抑えることはできますが、症状自体を治していることにはなりません。

欧米では、コプロラリアの研究はかなり進んでいます。強い症状が出た直後の数時間や数日間は症状が出にくいことから、欧米では、一人でいられる時間の内に (ご家族などがそばにいらっしやらない時間に) 症状を吐き出してしまふ、つまり、意図的にそのような言葉を思いきり言ったり書いたり作ったりしてしまい、他人と一緒にいるときに症状が出ないようにする、というリハビリも試みられています。

私たちに同様の症状をご相談下さっている女性の皆様は、あなたと同じく、英語圏やフランス語圏で生活されているわけではなく、やはり日本語を使って生きていて、症状も日本語によって出るわけですので、日本らしいリハビリとして、「性的な言葉を短歌・俳句・川

柳に書き殴る」という試みを実施されています。

お差し支えなければ、ご参加方法をお伝えいたします。よろしくお願い申し上げます。

2) コプロラリアの医学的定義と実態の奇妙さ

このような症状・障害は、「汚言症・猥褻語多用癖・猥語性愛(コプロラリア・Coprolalia、または、コプロラグニア・Coprographia)」と呼ばれ、医学的な分類としては、「ICD-10 F95 チック障害・トゥレット障害」において定義されています。チックやトゥレット障害とは様相が異なる部分があるにもかかわらず、今でもチック障害・トゥレット症候群の一種として分類されています。

最も多い症状は、猥雑な言葉(単語や文)を自らの意志に反して強迫的に発声したり筆記したりしてしまう症状です。稀に猥雑な言葉を含まず、乱暴な言葉、罵詈雑言(しばしば大声)のみで構成されるケースがあり、この場合は「汚言症」と訳されますが、多くのケースで猥雑語を含むため、「猥褻語多用癖・猥語性愛」と訳されることも多くなっています。

私たちにご相談下さった女性の皆様についても、ご自身の性的な言動のせいで登校や外出、通勤ができなくて苦しんでいるなど、あまりに私たち女性の性的な内容を含むため、シェアハウスでも特殊身体症状として扱っており、ご本人たちの要望に合わせて、おもに防音壁のある個室に入居しています。

不随意による猥雑な筆記行為についてはコプログラフィア(Coprographia)、不随意による猥雑な仕草やポーズはコプロプラクシア(Copropraxia)とも呼ばれます。

これらコプロラリアは、とりわけ重篤な複雑音声チックの患者に見られる症状ですが、軽度のチックであっても発症することがあります。頭が動く、まばたきをする、顔をしかめる、手足が動くなどの他のチックの症状と同時に現れることも多くなっています。

コプロラリアは、すべての重症のチック、トゥレット障害者が発症するわけではなく、それらのおよそ4分の1から3分の1の患者に現れる症状です。患者は、新造語、ジャーゴン、反響言語(エコラリア・Echolalia)、反復言語(パリラリア・Palilalia)など、他の言語障害に見られる特徴をコプロラリアにおいても示します。また、例に挙げたように、性的被害を原因とする不安障害、強迫性障害、PTSD、解離性障害や、注意欠陥・多動性障害(ADHD)、自閉症スペクトラム障害(ASD)においても発症することがあります。

20歳前後でほぼ現れなくなる他のチックやトゥレット障害の症状に比べれば、症状が長引く傾向にありますが、およそ25歳から30歳までには現れなくなります。ただし、中年・老年者や認知症患者にも見られることがあります。未婚女性と既婚女性・主婦との間で、発症率には差が見られません。

発症の初期においては、患者自らも親や周辺の大人も、思春期における性への興味関心によるものと見過ごすケースが多いですが、他のチック（まばたき、顔面の突発的な動きなど）の併発や、不随意的に言葉を発してしまう自覚から、次第に気づくことが多くなっています。養育・教育環境の良し悪しに関係なく患者が存在しますが、性的虐待・暴行の被害体験による認知のゆがみや性的抑圧によっても発症することがあります。

猥雑な言葉を子供がふざけ合って発している場合や、大人が性的な文脈で意図的・作画的に語り合っている場合、コプロラリアとは呼びません。また、実際には発言・筆記していないにもかかわらず、自分が猥雑な言葉を言ったり書いたりしているのではないかと不安になる症状（不安障害に含まれる）や、猥雑な言葉が聞こえてくる幻聴の症状（統合失調症に含まれる）も、コプロラリアとは異なります。

コプロラリア患者の知能は至って正常であり、自らが発した猥雑・乱暴な単語や文の意味や、それを発することがほとんどの社会的な場面で好ましくないという事実などを完全に理解しています。言葉を発した後に羞恥心や罪悪感も覚え、謝罪を行ったり、冗談だと口実を述べることも正常にできますが、言葉の発声や筆記そのものを自由意志で阻止・停止することはほとんどできません。ただし、数秒間の阻止・停止は可能であり、これが、脊髄反射ではないコプロラリアの特徴を示しています。

コプロラリア患者の言動は、実際にほとんど不随意的であると考えられており、脳の器質的問題が疑われていますが、一方で、患者自身の内界で自らの発言が「汚言」であることが了解されていることなどから、日本の精神医学界においても、半ば随意的な「タブー（禁忌）の侵犯」である可能性を指摘する説もあります。

→ トウレット症候群における「汚言症」は、無意識の産物か ～「空気は読めるが、あえて壊す」タブー侵犯がもたらすもの～（精神科医・熊木徹夫が語る「治療のキモ」）

http://www.dr-kumaki.net/kimo/ogen_sho/

また、チック症・トウレット症候群の動作全般が随意運動（むしろ、絶対的に強制された随意運動や、随意運動の中でも最も随意的な運動）であると見なして（あるいは、もはや断定して）、フロイトの精神分析学の超克を目指す新たな試みも存在します。これらは、コプロラリアに限らず、チック症・トウレット症候群の動作全般が脊髄反射でないことは確実であることや、睡眠中にはチックの動作が起きないことなどを根拠としています。すなわち、チックの動作は、「止めることができない」のではなく、「止めることを止めざるを得ない」という特徴を持っていることに注目しています。

→ Kuriki メソッド

http://www.tokyomaths.com/Pages/_01_ticdisorders_tourettessyndrome_index.aspx

3) 日本女性の「恥ずかしさ」とコプロラリア

コプロラリアが初めて報告された欧米圏でも、患者の言動がほとんど不随意的であるとされるにもかかわらず、本人たちも「汚言」の内容を十分に理解し苦しんでいることが多々指摘されています。また、患者の中には、性被害女性も多く含まれています。欧米圏では特に、患者の発言・筆記内容に、性や排泄物・汚物に関するものに加えて、他の人間（特に加害者）をけなす罵倒表現、復讐の表現が多く含まれます。

歴史的に個人主義社会である欧米圏（特にアメリカ英語圏）では、コプロラリア患者の言動に限らず、多くの一般的な罵倒表現（悪意ある格言やことわざ）が性的表現や汚物の表現に由来し、定着していることから（“Fuck you!”, “Kiss my ass!”, “Shit!” など）、コプロラリアは、脳の器質的問題であるよりも、個々人の無意識における性的な認知・リビドーのゆがみ、復讐心に関係していると考えられています。

一方、日本やアジア圏のチック障害・トゥレット障害者には、個々人の性的な認知・リビドーのゆがみや「タブー（禁忌）の侵犯」が関係しているとされていることに変わりはありませんが、欧米のような他者に対する攻撃的な罵倒表現がほとんど見られず、文学的で、滑稽な、しばしば擬人化された、ことわざのような独立した性表現が多く見られます。（「おまんこちゃん見て!」、「ばいばいおっばい」、「ピーチク（乳首のこと）」、「ちんぼこ」、「ちんちん食べたい!」、「ちんちんブラブラソーセージ」など。）

女性器の旧称「ほと」や「くぼ」に由来する「保土ヶ谷区」や「大久保」などの地名、女性器ばかりか大自然・宇宙全体が「おまんこ」的存在であると謳歌する谷川俊太郎の詩「なんでもおまんこ」などの例を出すまでもなく、とりわけ日本では、女性器名称を公言することに何ら躊躇や憚りが見られなかったことが、文化としての特色です。むしろ、住民たちは、女性器の中に埋もれ、包まれて生活しているという意識のほうが強固でした。

日本やアジア圏の一般的な罵倒表現は、「お前の母ちゃん、でべそ」のように、「相手(You)」個人の身体（性器）や汚物に対する「私(I)」という自己自身による罵倒表現ではなく、相手の親族の身体に対する、迂回した、笑いを誘う滑稽な誇張表現が多くなっています。とりわけ日本では長期にわたり、春画や黄表紙、落語などに見られるように、性表現そのものを忌み嫌う文化がなく、相手個人やその親族の身体や汚物への言及がその人格に対する罵倒表現になり得ない歴史が長きにわたったことから、性表現が罵倒表現として定着することは困難で、チック障害・トゥレット障害者の無意識においても、それは同様です。

特にコプロラリアの日本女性においては、自らの症状を恥じたり恐れたりして、鬱病となったり引きこもったりしている事例が見られます。なぜならば、上記の理由により、今でも日本では、性被害女性が無理に頑張る反抗的な強い性表現（相手の身体・汚物への非難や、自らの身体・汚物の誇示、例えば「糞野郎!」、「変態野郎!」や「私のケツを舐

めろ！」など)を発したとしても、相手(例えば、自分に性被害をもたらした加害者)に対して自らの正当性や人権を主張する個人主義的な罵倒表現(反論・反抗)や欧米風の鋭いジョーク(犯罪の抑止効果)になり得ず、笑いを伴う庶民文化風となってしまう、あるいは異常性欲者として扱われ、逆効果となってしまうためです。

特に現代日本のコプロラリア女性の脳(無意識)においては、自らの性表現を、時代錯誤の恥ずかしい独り言(セクハラなどが問題になる中、逆にいまだに性で笑いを取っている、時代遅れの女性の孤独な発言)と了解するほかなくなっているものと考えられます。従って、自らのコプロラリアの原因が過去の性被害にある場合も、それに気づきにくいのです。

このように、コプロラリアの発症の仕方には、文化的・宗教的な違いも大いに関係していると考えられます。

短歌・俳句・川柳による汚言症・猥褻語多用癖(コプロラリア・Coprolalia)のリハビリもご覧下さい。

4) コプロラリアと迷惑防止条例違反「ひわいな言動」

昨今、公の場で「ひわいな言動」を行ったとして迷惑防止条例違反に問われる男女が増えています。しかし、その実態を調査すると、もちろん多くの場合は、意図的な言動であり、条例違反の可能性が高いものの、中には「自分が発したことは理解しているが、呼吸・心拍と同じくらい言動を止められなかった」など、コプロラリアの可能性を示唆する告白が見られます。特に、決してニュースにはならない女性の「ひわいな言動」において、多数見られます。

アメリカや欧州では、「Obscenity」(わいせつ、ひわい)な言動がコプロラリアの症状によるものでないかどうか、罰則を与える前に、法医学的な観点からも研究されるようになっています。しかし、日本にはそのような体制がないため、今後も第一に迷惑防止条例違反に問われると考えられます。

5) コプロラリアの類似概念

コプロラリアの類似概念には、以下のようなものがあります。

- ・コプロラリア(Coprolalia): 社会的に受容しがたい(通常は猥雑な)言葉や罵詈雑言を口から不随意的に発してしまう場合
- ・コプログラフィア(Coprographia): 社会的に受容しがたい(通常は猥雑な)言葉を不

随意的に筆記したりそのような絵を不随意的に描いたりしてしまう場合

・ コプロプラクシア (Copropraxia) : 社会的に受容しがたい (通常は猥雑な) 動作・仕草・ジェスチャー・ポーズや罵倒の動作・仕草・ジェスチャー・ポーズ (相手に中指を立てるなど) を不随意的にしてしまう場合

参考文献

Tourette's Awareness for Parents of Autistic Children

<https://quietweek.com/2013/01/20/tourettes-awareness-for-parents-of-autistic-children/>

Busting 5 Myths about Tourette's Syndrome

<http://brittanyfichterwrites.com/busting-5-myths-about-tourettes-syndrome/>

Introduction to Tourette Syndrome

<https://www.slideshare.net/sacralfruit/introduction-to-tourette-syndrome>

What is coprolalia, tourette's syndrome

<https://www.slideshare.net/annfeelgoodtimenet/what-is-coprolalia-tourettes-syndrome>

Coprolalia: 4 possibili cause delle parolacce patologiche

<http://scienzaesalute.blogosfere.it/post/565768/coprolalia-4-possibili-cause-delle-parolacce-patologiche>

トゥレット症候群の概要

<http://square.umin.ac.jp/develop/tou/tourette.htm>

東京大学医学部附属病院精神神経科におけるトゥレット症候群の診療及び臨床研究

<http://square.umin.ac.jp/develop/tou/trtt1.htm>

トゥレット研究会について

<http://square.umin.ac.jp/develop/tou/trtt2.htm>

“全般性チック”とコプロラリアからみたトゥレット症候群の臨床特徴について (金生由紀子)

<http://gakui.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/gazo.cgi?no=213962>

トゥレット症候群における「汚言症」は、無意識の産物か ～「空気は読めるが、あえて壊す」タブー侵犯がもたらすもの～ (精神科医・熊木徹夫が語る「治療のキモ」)

http://www.dr-kumaki.net/kimo/ogen_sho/

Kuriki メソッド

http://www.tokyomaths.com/Pages/_01_ticdisorders_tourettessyndrome_index.aspx

汚言症 (Wikipedia)

女性現実研究所 (Women's Real-Life Research Laboratory、WRLRL、ウィルール)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%9A%E8%A8%80%E7%97%87>